

「富田林市中学校給食のあり方基本方針（素案）」に対するパブリックコメントの実施結果について

1. 募集期間

令和6年12月6日（金）～令和7年1月14日（火）

2. コメントの状況

提出数96通、コメント数204件

（応募フォーム51通・FAX21通・持参15通・郵送6通・Eメール3通）

3. コメントにより修正した箇所

なし

4. パブリックコメントでいただいたコメントと市の考え方

コメントの要旨	市の考え方
◆ 全員給食による学校給食の実施	
・ 生徒全員が給食を食べられるのはよい 【6件】	・ 学校給食の意義と重要性をふまえ、すべての生徒に提供できる全員給食を実施するものです。 ・ 栄養バランスのとれた、変化のある献立をめざし、生徒の皆さんにとって望ましい給食となるように取り組んでまいります。
・ 選択制を継続するのがよい、選択制をやめないでほしい 【7件】	
・ 全員給食になると残食が増えるのではないかと 【1件】	
◆ 全員給食の提供方式「デリバリー方式HOTランチボックス」	
・ ランチボックスでよい 【1件】	・ 生徒の皆さんにとってより良い給食となるように取り組んでまいります。
・ 自校方式を継続するのがよい、自校方式をやめないでほしい 【24件】	・ 全員給食の提供方式については、現行の自校方式を継続する場合、老朽化した施設や設備の新たな整備改修に多額の予算が必要となることや、8校を整備するため、全校一斉の全員給食移行が難しいことなど、実施は困難であると考えています。 ・ 現行の自校方式を継続する場合、配膳においては、量の調節はできますが、各教室で生徒が盛り付ける方法に変更する必要があるため、配膳下膳の負担や教職員の給食指導の負担も新たに生じることとなります。
・ 施設や設備を更新し自校方式を継続してほしい、改修するのは当然 【10件】	
・ 現在の配膳方法を見直して自校方式を継続できないか 【8件】	

・ 自校方式は災害時に調理して食事の提供ができる 【１０件】	・ デリバリー方式に移行した際は、給食調理設備はなくなりますが、災害時に学校が避難所となった場合、水道や電気の使用、給食室内スペースの活用は可能であると考えています。
・ 大阪府内の多くの市がデリバリーから給食センターへ方式を移行している 【１０件】	・ デリバリー方式のランチボックスで温かい給食を提供している府内の市では、方式が継続される状況にありますので、一定の評価は得られていると考えています。また、給食センター設置については、用地確保や公共施設総量の面で課題があるため、採用は困難であります。
・ 衛生管理が心配だ、衛生面で無理がある 【１１件】	・ 給食調理等を委託する事業者については、大量調理施設衛生管理マニュアル（厚生労働省）や学校給食衛生管理基準（文部科学省）等に準じて、衛生面や安全面に配慮した食材調達、調理や衛生管理が行われているかなどをあらかじめ確認した上で、それに基づく業務実施を求めてまいります。衛生管理の状況把握など運用上の検討を行い、安全安心な給食提供ができるよう努めてまいります。
・ 安全な食材が使用されるのか不安だ 【１４件】	・ デリバリー方式においても、市栄養士等が使用食材の規格や献立の立案に関わり調理業者と連携して行うことにより、これまでの自校方式と同様に、安全で栄養バランスのとれた給食の提供が可能であると考えています。
・ 量の調節ができない、残食が増える、冷たいものは提供できなくなる 【７件】	・ 量の調節については、おかわり用ごはんの導入により対応が可能と考えています。
・ 献立（汁物やカレーなど）がどうなるのか 【１１件】	・ カレーや汁物などの配膳を要する献立の場合は、生徒や教職員の皆様の負担を考慮する必要がありますが、冷たいものは冷たく提供するなど、献立内容のニーズを把握するなどの検討も必要と考えています。今回いただいたご意見も参考に、給食の充実に努めてまいります。
・ 地元産食材の活用ができるのか 【１２件】	・ 給食調理等を委託する事業者については、富田林産の農産物など可能な範囲で地元産食材を活用できる体制などをあらかじめ確認した上で、それに基づく業務実施を求めてまいります。地元産食材の活用について運用上の検討を行い、地域の食や食文化への興味や関心を高め、地産地消につなげるよう努めてまいります。

・調理員との会話がなくなる、顔が見えなくなるのは食育の面で後退 【6件】	・学校給食をはじめ、食に関わる人たちの様々な活動に支えられていることについて理解を育んだり、望ましい食習慣を形成できるよう、学校と連携し、給食を通じて食育の推進に努めてまいります。
・費用が一番安いという理由で方式を変えるべきではない 【17件】	・全員給食の提供方式については、費用面を含め、全校一斉開始や早期の実現、給食配膳の運用、アレルギー対応など様々な点を比較し検討した上で、デリバリー方式（民間調理場活用HOTランチボックス方式）を導入するもので、持続可能な学校給食運営であると考えています。
・児童生徒数が減っていくので自校方式の給食が持続可能である 【2件】	
・民間業者は利益優先になる、急な倒産などで給食が提供できなくなる 【9件】	・給食調理等を委託する事業者については、危機管理の対応を含め安全安心な給食提供体制などをあらかじめ確認した上で、それに基づく業務実施を求めています。
◆ 全員給食の開始時期、全員給食開始までのスケジュール（予定）	
・早く実現してほしい 【1件】	・全員給食をできるだけ早期に実現することが必要であると考えますので、開始時期については、最短で令和8年度2学期（9月頃）を予定しています。
・全校一斉でなくてもよいのではない 【1件】	・全員給食の実施にあたっては、学校によって、選択制給食と全員給食の併存や給食提供方式が異なることは、望ましくないと考えます。このことから、学校間の差異が生じないように、全校一斉に開始してまいります。
・給食導入時のように数年かければよい 【4件】	
◆ 生徒・保護者の意見聴取	
・アンケートで自校・給食センター・デリバリー方式ランチボックスについて問うべき 【10件】	・給食の提供方式については、十分検討した上で、責任をもって市としての案をお示しし、広くご意見を伺うことが重要であると考え、富田林市中学校給食のあり方基本方針（素案）に対するパブリックコメントを実施しました。このことから、給食提供方式について生徒や保護者の皆さんへアンケートを実施することは考えておりません。
・生徒・保護者にランチボックスを試食してもらって意見を聞くべき 【4件】	・全員給食の提供方式の検討にあたり、令和6年10月に計4日間、小中学校24校のPTAの方46名を対象に、デリバリー方式HOTランチボッ

	クスを知っていただくための試食会を開催しました。アンケートでは、当日のメニューについて、「満足・どちらかと言えば満足」が72%、「普通」が24%、「不満・どちらかと言えば不満」が4%で、おおむね満足していただいています。また、「ごはんやおかずの量が少ないと感じる」、「冷たく食べられるものも温かくなるのは、気になる。」、「温かい給食を子どもが食べることができるのは、とても魅力的です。」、「アレルギー対応が出来る点や生徒の負担が少ない点はよいと思います。」などのご意見をいただきました。
◆ 素案に直接関係がないと考えられるご意見	
素案に直接関係がないと考えられるご意見と判断したため、掲載は省略させていただきます。 【18件】	・いただいたご意見につきましては、中学校給食運営に関するご意見として参考にさせていただきます。